　　　　　　　　　　　　　　　　　　岩手県社保協報告（北海道・東北ブロック事務局長会議）

2023年3月20日（月）

前回ブロック会議（12月15日）以降の主な取り組みと経過

　1月17日（土）　　フォーラム共催会議

　2月8日（水）　　　全国代表者会議

　2月9日（木）　　　県政への要望を聞く会

　2月11日（土）　　建国記念日を考える県民のつどい

　2月19日（日）　　第7回わたし☆まちフォーラム

2月22日（水）　　25条宣伝（県庁前）

2月22日（木）　　後期高齢者医療広域連合議会傍聴

3月1日（水）　　　県社保協第1回常任運営委員会

≪主な取り組みの経過≫

１．県社保協第1回常任運営委員会　　３月１日（水）

　２月８日の全国代表者会議の内容をもとに、この春のたたかいの柱と具体化について討議を行った。

**大軍拡より社会保障の拡充を求めるたたかい**として、

1. 「大軍拡より社会保障の拡充を」１００万筆署名の推進、23年1月～25年6月末まで、地元国会議員への要請行動、地方議会での意見書採択に取り組む。
2. 同時に大軍拡・大増税NO連絡会の「平和、いのち、くらしを壊すだいぐんかく、大増税に反対する請願署名」も推進し国会を包囲する闘いへ。

**これ以上の国民負担増を許さない、通常国会のたたかい**として、

1. 史上最悪の介護保険制度改定を許さないたたかいとして、改悪の断念まで署名を推進する。
2. 医療制度改悪阻止と制度改善・拡充のたたかいとして、７５歳医療費２倍化の中止を求める署名の実施署名の実施。保険医協会、民医連等が取り組む2倍化実施後の影響調査結果を可視化する。75歳以上の保険料引き上げを許さないたたかいをすすめる。
3. 子どもの医療費助成制度は、8月から高卒まで「現物給付」となるが、所得制限、窓口一部負担の撤廃

を目指す。子ども医療全国ネットの「子どもの医療費無料制度を国の制度に」と署名運動に取り組む。

1. 健康保険証廃止反対、マイナンバーカード取得強制を許さないたたかいとして、国会請願個人署名と団体署名にとりくんでいる。国会請願30万筆目標　第3次集約4月末、最終集約6月末。
2. 国保税引き下げのたたかい（１兆円の国費増で均等割・平等割廃止）として、各自治体要請、統一地方選での引き下げ運動をすすめる。全商連の提言「国保提言2022」コロナ禍、痛苦の経験をバネに、受療権、健康権の拡充へ、パンフの活用をすすめる。

　・盛岡地域社保協再開について、コロナにより話し合いを休止していたが協議の再開を確認した。

　・上記、統一地方選挙（4月、6月、7月、8月、9月）での争点として取り組む。

２．2023年1月議会への請願　　　3月17日（金）各常任委員会で審査

①「安保３文書改定の撤回と大軍拡・大増税の中止を求める請願」

請願者：岩手県生協連、憲法改悪反対岩手県共同センター、平和環境岩手県センターなど17団体

　②「原発回帰への方針転換に反対し、原発に頼らないエネルギー政策を求める請願」

　　　　請願者：岩手県消団連など31団体

　③「2023年度最低賃金の引き上げに関する請願」

　　　　請願者：いわて労連

　④「物価上昇に見合う老齢基礎年金等の改善を求める請願」

　　　　請願者：年金者組合岩手県本部

1. 「普天間基地周辺の子どもたちを取り巻く空・水・土の安全の保障を求める請願」

　　　　請願者：岩手県平和委員会

３. 「大軍拡より社会保障の拡充」をもとめる取り組み　2月22日（水）

　県庁前宣伝を実施。県春闘共闘・盛岡地域春闘共闘が取り組んだ宣伝・要請行動の一環として県社保協が要請。１６名が参加。年金者組合県本部、県母親連絡会も参加。（2月号ニュース既報）

年金者組合の行動日と合わせて今後も宣伝・署名活動を強化していく。

４．地域医療を守る取り組み

　①奥州地域の地域医療を守る運動

　　奥州地域医療懇話会が12月と1月に行われた。現在「地域医療奥州市モデルの実現に向けた市立病院施設のあり方（案）」と「地域医療奥州市モデル及び新病院建設予定候補地（案）」が議論されている。

　　地域医療奥州市モデルのイメージは、病院間の役割分担と連携強化に主眼を置いた「機能分化・連携強化」であり、「公立病院経営化プラン」そのものと思われる。また、老朽化した水沢病院の病床を50床削り、回復期リハビリ病床50床、一般病床50床、感染症4床の計104床として建替え、診療科は内科・小児科・外科・整形外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・精神科を基本としている。また、市内公的医療施設のまごころ病院、前沢診療所、衣川診療所、衣川歯科診療所との相互連携を図るとしている。

　　委員からは様々な意見が出されている。

５．国保改善の取り組み

1. 令和５年度納付金額及び標準保険料率算定結果一覧　　　　　　　　　　　　　　　　資料
2. 2021年度の収支決算・財政調整基金の保有状況　　　　　　　　　　 　　　　　　　資料

６．補聴器購入費の助成の拡充

久慈市が2022年9月より、65歳以上の補聴器購入費用を一部助成。大船渡市、遠野市、九戸村に続いて4番目の実施となる。（2月ニュース既報）

|  |  |
| --- | --- |
| 市町村 | 支援内容 |
| 大船渡市 | 18歳以上を対象に助成。原則1割の自己負担。（基準額41600～43900円）  支給要件：両耳50以上70デシベル未満または1耳50デシベル以上・他耳90デシベル未満 |
| 遠野市 | 60歳以上を対象に助成。原則1割の自己負担。（基準額34200～43900円）  支給要件：両耳55以上70デシベル未満 |
| 九戸村 | 18歳以上を対象に助成。原則1割の自己負担。（基準額41600～43900円）  支給要件：両耳40以上70デシベル未満 |
| 久慈市 | 65歳以上を対象に助成。原則1割自己負担。（基準41600～43900円）  支給要件：両耳40デシベル以上 |

７．年金改善のたたかい

　　「年金引き下げ違憲訴訟」は提訴から7年が経過。18都府県が最高裁に上告。2月3日の第2回最高裁要請行動に岩手から鈴木委員長と山田副委員長が参加。

８．第7回わたし☆まちフォーラムinいわて　　　2月19日（日）

　　テーマ「岩手におけるジェンダー平等　～多様性を認めあえる社会をめざして～」ZOOM参加を含め約80人参加。全体講演は、海妻径子岩手大学人文社会科学部教授（副学長）県社保協は午後から開催された第３分科会の幹事を務める。

９．東日本大震災・津波災害から12年

①転居被災者アンケート（盛岡市調査）

　　大震災津波後に沿岸部から盛岡市へ転居した被災者に同市が実施したアンケートで、調査は昨年10月7日から11月9日に実施。236世帯が回答を寄せた。被災者の医療費や介護利用料の免除終了（2021年末）の影響を受けた人は、「利用できなくなった」が6.5％、「利用回数が減った」が12.4％、「他の支出を減らして継続した」が27.9％となり、合計で46.8％に達した。

心身の健康については、「時々調子が悪くなる」「やや調子が悪い」「とても調子が悪い」を合わせると72.5％が懸念を表明。近所（町内会、民生委員を含む）との交流が「ほとんどない」「全くない」という人は52％に及んだ。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　現在の困り事や心配事（複数回答可）に関しては、生活費・お金62.1％）、心身の健康（53.4％）、医療費や介護利用料の免除終了（38.8％）、介護（20.4％）が目立ちました。自由欄には、▽医療費免除の再開を。物価高騰で生活の楽しみがなくなった▽通院に使えるバスの本数を増やして▽盛岡に10年住んでもなじめないーなどの記述がありました。

②保険医協会による被災地アンケート

　　協会内の体制がかわり、アンケートの実施の方向では検討しているが、取組み時期は未定。

10．新型コロナ関連（県議会質疑より）

昨年10月以降の第8波による高齢者施設での感染の実態は、県は374件のクラスターが発生し2310人の入所者が感染、124名が施設内療養中に亡くなったと回答（いずれも3月10日現在）し、第8波での死者数416人の約3割を占める深刻な状況が明らかになった。  
　県内のある特養ホームでは、5人が酸素飽和度60～70台の状態になったが1人も入院できなかった実態もあり、この間の高齢者施設でのクラスター対応をしっかり検証し、命を守るための改善を図るよう強く求めた。野原保健福祉部長は、「この問題を重くとらえ、医療と介護の連携、訪問医療等の強化に努めたい」と答えた。  
　また、第8波における県立病院・公立公的病院の入院患者の受け入れ状況についても質問。県側は、全体の94.5％を県立病院・公立公的病院で受け入れている（県立病院68.3％、公立公的病院26.2％）と述べ、公的病院の果たす役割が改めて浮き彫りになった。  
　さらに、さらに、新型コロナの5類への移行は公助の打ち切りを意味し、国民・県民に自己負担を押し

つけるものだと厳しく指摘した。

【主なリスク因子・基礎疾患】（2/13現在）

1. 高齢者（65歳以上）：566例
2. 慢性腎臓病　　　　：74例
3. 糖尿病　　　　　　：98例
4. 高血圧　　　　　　：184例
5. 悪性腫瘍　　　　　：97例
6. 心疾患　　　　　　：157例
7. 喫煙　　　　　　　：6例
8. 慢性閉そく性肺炎　：20例
9. その他　　　　　　：321例

※基礎疾患については重複あり

（県疫学調査結果等から）

【年代・男女別】死者数（2/13現在）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 年代 | 男 | 女 | 計 |
| 50歳未満 | 3人 | 2人 | 5人 |
| 50代 | 9人 | 4人 | 13人 |
| 60代 | 30人 | 11人 | 41人 |
| 70代 | 57人 | 26人 | 83人 |
| 80代 | 217人 | 100人 | 217人 |
| 90歳以上 | 70人 | 167人 | 237人 |
| 計 | 286人 | 310人 | 596人 |

【公表月別】死者数　　　3月15日現在

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 |
| 1月 | - | ３ | - | １５８ |
| 2月 | - | ３ | ６ | ２９ |
| 3月 | - |  | １８ | ７ |
| 4月 | - | １ | ９ |  |
| 5月 | - | １４ | ５ |  |
| 6月 | - | １ | ５ |  |
| 7月 | - | １ | １３ |  |
| 8月 | - | ２ | ５４ |  |
| 9月 | - | ３ | ３０ |  |
| 10月 | - | １ | １１ |  |
| 11月 | ３ | - | ６６ |  |
| 12月 | ２１ | - | １４９ |  |
| 計 | ２４ | ２９ | ３６６ | １９４ |

11.その他　　①2022年度保健師活動領域調査より北海道・東北ブロックの保健師の配置状況















